

天才アート KYOTO



天才アートとは、障碍のある人の多くがもつ優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構 (天才アート KYOTO) が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行っています。



発行日 2021年7月10日 (土)

発行者 特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



『COMMERCIAL』 富田 晃生 Akio Tomita 1989年生 紙・セロハンテープ 写真提供：アーツ千代田 3331「ボコラート全国公募展 vol.9」(2020)より



第9回天才アート KYOTO展2021 OPEN STUDIOS (開催予定)

きたアトリエへの移転を記念し、第9回「天才アートKYOTO展2021」OPEN STUDIOS」を開催いたします。同展は、移転した「きたアトリエ」を会場に、登録作家の作品を一堂に観ることができ、展覧会です。

昨年は旧新道アトリエを開放し、展示作家37人、展示総数569点を展示しました。会期中、新型コロナウイルス禍にもかかわらず合計441人もの来場者があり、多数の作家たちによる「いま、ここで」作品が生まれていく展覧会を楽しまれました。今回、北区に移転した新しいアトリエでの展覧会を行うことで、当機構の登録作家による作品が持つ魅力や、またどんな社会情勢下も止まることのない情熱的な創造過程を、地域の皆さまをはじめ、広く社会に発信します。

主催：NPO法人障害者芸術推進研究機構

十京都新聞



会場となる「ふれあい共生館」

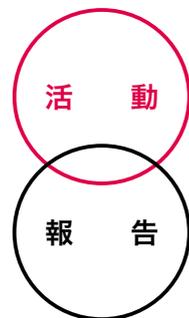


昨年開催の「天才アートKYOTO展2021～OPEN STUDIOS」(東山区の新道アトリエ内)

会期：2021年9月25日(土)～10月10日(日)
会場：きたアトリエ(北区千本通北大路下

ル・ふれあい共生館)

助成：大阪コミュニケーション財団



北区「ふれあい共生館」へのアトリエ移転

2021年5月初旬にアトリエを移転しました。

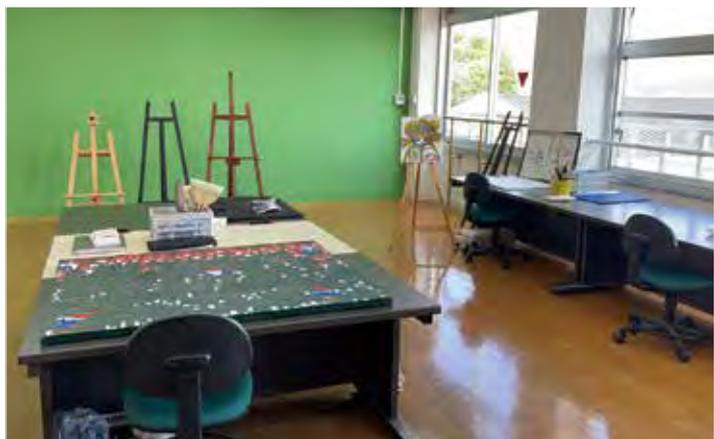
新アトリエは、北区にある元築只小学校校舎を改修して新たに「子育て・人権・文化芸術の拠点」のまちづくり・複合施設として開設された「ふれあい共生館」の中にあります。

ふれあい共生館には、児童館、保育所、いきいき市民活動センター、ツラッティ千本、HAPS、そして天才アートKYOTOの6施設・団体が入居しています。

天才アートKYOTOは本館1階にアトリエと事務室、西館2階・3階にアトリエ2室、作品収蔵兼撮影スタジオ1室、多目的室1室を開設しました。また、本館1階奥のピロティスペースには、陶芸釜も設置しました。

本館にはエレベーターも設置されてバリアフリーに配慮されています。アトリエの名称は、「きたアトリエ」です。

この度の新「きたアトリエ」の移転を機に活動のさらなる充実を進めてまいります。関係者の皆さまの引き続きのご協力・ご支援をよろしく願います。



3階アトリエ・みどりルーム



新アトリエ所在地：〒6003-8226

京都市北区紫野西舟岡町2番地

TEL・FAX 075-3334-5180

Eメールアドレス info@tensai-art.kyoto

新たなご発展をお祈り 致します

元新道小学校施設長
上川 恒雄



長らく元新道小学校校舎をご利用いただき、ありがとうございます。平成23年3月末で新道小学校は閉校し、静かになった校舎でしたが、その1年余の後に芸術創作活動の場として活用されることになり、校舎が再び活気づき、施設を一人が管理していた私は大変うれしく思ったことが昨日のことのようによみがえります。

以来8年半にわたって肅々と地道に活動を続けられ、年々発表の場が広がり、多方面からの理解と高評価を得られてこられたように感じました。そして、たびたびそれらの活動をメディアが取材に来たり、全国各地、各方面の関係者の方々が視察に来られたりしていました。

また、時おり作品を拝見しましたが、各アーティストの方々の個性や感性の豊かな作品には魅せられました。

建仁寺と恵美寿神社、宮川町の花街の町並、古い文化と悠久の歴史に包まれた静かな環境の元新道小学校で、素晴らしい創作活動を続けていただくことができ幸いでした。

元新道小学校舎をアトリエとして培われてきた活動を継続され、新たな地でさらに発展されることをお祈り致しております。

さようなら「新道アトリエ」。 新道学区の皆さま、ありがとうございます。

障碍のある方の中には、表現行為に興味や関心があり、高い才能を持っている人がたくさんおられます。当機構は、そんな人たちに伸び伸びと制作活動に打ち込み、優れた作品を生み出す制作の場を提供したいと考え、2011年4月にNPO法人を設立しました。その後、同年の10月から制作活動の場として「アトリエ会」を発足しました。当時の登録作家は、11歳から22歳の15人でした。発足時は、伏見区の総合庁舎の市民交流スペースなどを借りていましたが、利用申請の抽選に外れるなど活動場所を確保することが不安定なままのスタートでした。また、制作の場である「アトリエ会」を開催するときは、会場まで画材を運んだり、借りた場所を汚さないためにビニールシートを敷いたり、その都度環境整備をすることが大変でした。とはいえ、作家やその家族・スタッフは、作家たちの制作意欲や才能、創作に打ち込む楽しさを肌で感じ、制作の場を確保することに奔走しました。最も大切な課題であり願いは、いかに安定した制作の場を確保するかでした。

そして、当機構設立2年目に「元新道小学校」に念願のアトリエ開設という幸運に恵まれました。元新道小学校は、少子化などの時流を受け開校141年目の平成23年に開晴館小中学校に統合され閉校になったため、その跡に開設できたのでした。同校

は、北隣に京都多比す神社、東側に建仁寺、西側には京都五花街のひとつである宮川町などに囲まれていて、京都の風情・文化を醸し出す地域にあります。そんな地域の皆さまが、地元とともに伝統と文化芸術を推進する団体として当機構を迎え入れてくださいました。

「新道アトリエ」の開設により、作家の皆さんが落ちていて制作できる環境が整いました。そして、今日、登録作家は開設当時の2倍以上の40人超となり、所蔵作品は、3700点を超えるまでに至りました。2012年から所蔵作品をもとに毎年定期的に作品展を開催してきました。また委託事業として、東山区総合庁舎での企画展や、文化庁地域創生本部の文化庁長官室での作品展など、作品の魅力を紹介する機会を何度もいただきました。そして昨年は、新道アトリエでの制作が終わりの年を迎えるに当たり、最後の新道アトリエでの作品展「OPEN STUDIOS」を開催いたしました。コロナ禍の中の作品展ではありましたが、作品

が生み出される現場をご覧いただけることから終始盛況でした。また、地域の皆さまにもたくさんご来場いただき、これが最後の企画になってしまいうことに少し寂しい思いがしました。

元新道小学校の本格活用の決定に伴い本年4月に退去致しましたが、この落ち着いた環境のもと、多様な作品が数多く生み出されたこと、「天才アトリエKYOTO」を知っていた多く機会をたくさん得られたこと、地域の皆さまをはじめ多くの方々にご支援いただきましたおかげでございます。新道校区の皆さまからいただきましたご厚情と、「新道アトリエ」で構築した制作活動の基盤を大切にしまして、新たな活動拠点になる「きたアトリエ」で邁進していきたいと存じます。

「新道アトリエ」を支えてくださいました皆さま、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。



いしい こうた



『かなしきたいよう』 W540×H380mm 画用紙・クレパス 2021年制作

いしい こうた Kota ISHII 1995年生

いしいこうたは、アクリル絵の具やクレパス、鉛筆などを用いて作品を作りますが、一度絵を描き始めると止まることない雄牛のような勢いでパワフルに描きます。その多くは「人の感情」や「動物」をモチーフとしており、近代絵画や漫画表現などからの影響も貪欲に受け入れ、混沌とした世界を吐き出します。



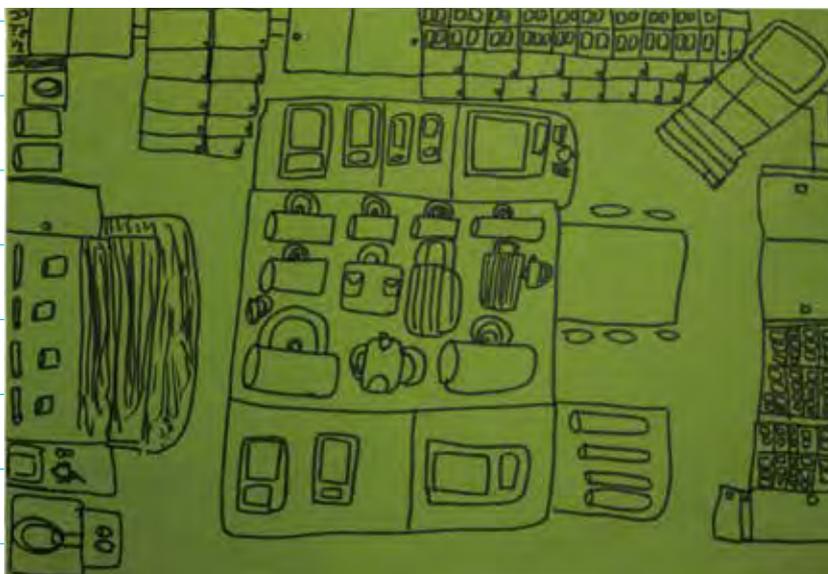
『ねそべる太陽』 W540×H380mm 画用紙・クレパス 2021年制作



『むだい』 W540×H380mm 画用紙・クレパス・アクリル絵の具 2021年制作

池上 暢章 Nobuaki IKEGAMI 1990年生

池上のドローイングは、自宅の室内や通所している事業所内部を展開図のように描きます。ドローイングの上では部屋の物と物の重なりや厚みは消え、全てが均一に二次元的に並べられます。それは例えば家具やその引き出しの中の洋服や食器類であっても、電化製品などであっても、三次元的な空間は消失することで、全てが等価値であるかのような印象を与えます。



『僕と母さんと多田さんの部屋』 W390×H270mm 色画用紙・油性ペン 2013年制作

藤原 佳弘



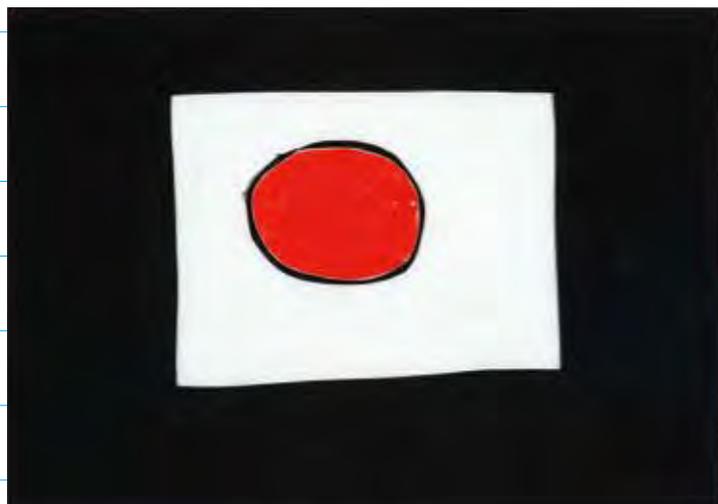
『国旗シリーズ (ロシア)』 W297×H210mm PET 樹脂 制作年不明

藤原 佳弘 Yoshihiro FUJIWARA 1995年生

藤原は「タックステンド」というスタンドグラス調に表現できる画材を用いて動物や昆虫を描き続けますが、しばしば国旗をモチーフに作品を制作します。彼の手によって生まれる国旗は簡略化され、どこか語りかけてくるような親しみやすさがあるのが特徴です。国旗は単なるアイコンではなく、しばしば国の文化や歴史そのものを象徴するものです。ロシア国旗の白は高貴と率直を、青は名誉と純潔性を、赤は愛と勇気を表します。私たちが見慣れた国旗一つ一つにも由来があり、それらを知ることは他国の歴史と文化を知る、その最初の入口を彼は作っているのかもしれない。



『国旗シリーズ (パキスタン)』 W297×H210mm PET 樹脂 制作年不明

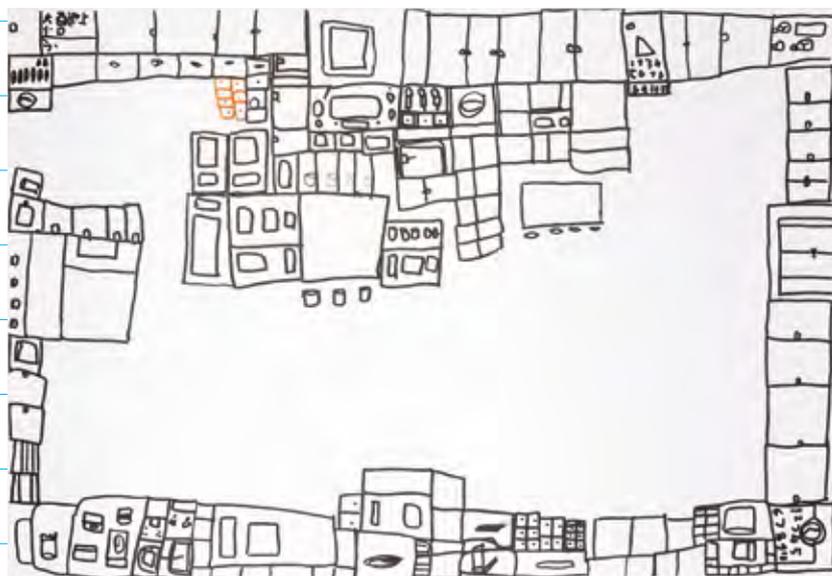


『国旗シリーズ (日本)』 W297×H210mm PET 樹脂 制作年不明

池上 暢章



『無題』 W295×H210mm 紙・ボールペン・色鉛筆 2006年頃



『無題』 W390×H270mm 画用紙・ペン 2013年

ご家族さまより寄稿

登場人物の笑顔が幸せを運ぶ

池上 千恵

●生まれてから就学まで

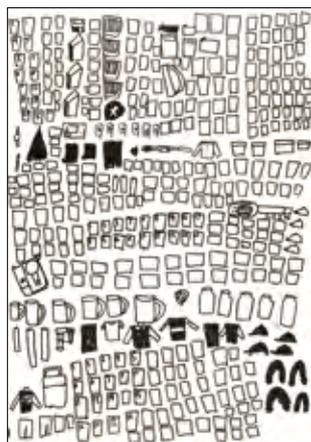
暢章は現在30歳で、自宅からすぐ近くの福祉作業所に通っています。自分の好きな作業や活動に参加して、日中マイペースに過ごさせてもらっています。

出産直後に鎖肛（肛門が塞がっている状態）であることが分かり緊急手術を受け、その後1か月程入院してやっと退院することができました。ダウン症の告知を受けた時には落ち込みましたが、排便をスムーズにするためにとても神経を使いました。それに、上の子の世話もあり、悩んでいる間もなく毎日が過ぎていったように思います。

1歳を過ぎてから母子通園を始めたこぐま園では、遊びの時間にもじっと座っていることが多かったのですが、保母さんがさまざまに工夫を考えて下さっていました。ただ、食べることは大好きで、いつも誰よりも早く食べ終わっていました。

2歳半で地域の保育園に通い始めてからとても活発になっていき、お友達との関わりが増えていく中で、まだ言葉が出ない分、手を出したり、物を投げたりすることが増えていきました。その後も随分悩まされることが多かったです。

小学校は隣の校区の育成学級へ進みました。自分の校区の学校に進めなかったことは残念でしたが、学童で受け入れてもらい、放課後に児童と交流したり、毎年夏のキャ

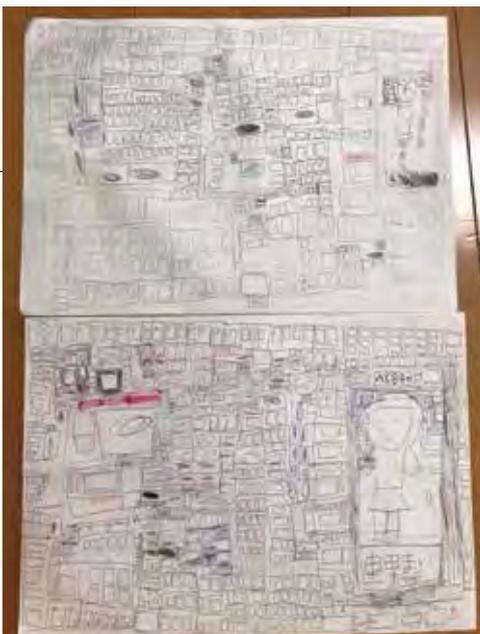


ポスターになった作品

ンプに連れて行ってもらったりしたことは貴重な経験になりました。中学校からは養護学校へ。より少人数で学ぶ中で、好きな先生、友達ができて、毎日学校が楽しいと思えたことは何よりもうれしいことでした。一番の思い出は、ソフトボールの部活動で仲間と練習や試合を経験できたことだと思います。

●ニコニコ笑顔のイラスト

暢章は小さい頃から絵に興味があった訳ではなく、小学校の頃はジグソーパズルに夢中になっていました。公文のパズルを貰ったことがきっかけで、どんな面白くなっていき、好きなキャラクターのパズルを集中して作っていました。完成したパズルは平気で壊し、またすぐに初めから作



中学校の頃に描いた作品

り直します。出来上がっていく過程が面白いのかなと思いました。ピースの数も増えていきました。

中学校に入った頃から、どこからか自分でチラシやプリントを見つけてきて、裏面にイラストの様な絵をサインペンで書いていました。その絵は真上から見た構図で、部屋や教室のようでもあり、ベッド、机、洋服、おもちゃなどが細かく書かれています。絵の中の登場人物は好きな物に囲まれていつもニコニコ笑顔です。

パズルに飽きて今度は絵を描いているんだと思っていたら、当時学校に連れて来た芸大の先生が面白いと思って下さり、京都国際マンガミュージアムの作品展に出してもらい、ポスターにも採用されました。それまで暢章の絵に対して他の人のように色を塗った方が良いのにと感じていたのですが、比べるのではなく暢章なりの見方で物事をとらえて表現していくことの大切さに改めて気づかされました。

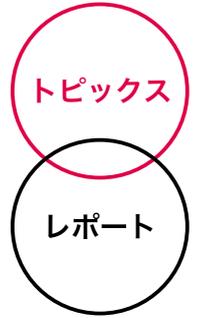


最近の興味はサインペンでの塗り絵

●自分の好きなものを描く

卒業後、アトリエ参加のお誘いをいただき、学校という場がなくなった今、余暇活動の一つになればと思い参加させてもらいました。

現在の暢章は塗り絵に興味に移ったのか、サインペンで塗る作業に集中しています。絵を描くことはアトリエ会に参加した時だけになりました。表現活動の興味はその時により変わっていきます。最近のアトリエ会に行く日には、好きな雑誌やCD、プリントなどを持っていき、とにかく自分の好きな物や人で埋め尽くされた絵を相変わらずサインペンで描いています。やはり登場人物はみんな笑顔で、こちらまで幸せな気持ちにさせてくれる絵です。これからも暢章のやりたい気持ちを尊重してアトリエ会に参加して欲しいと思います。



ひきこもり者支援事業 作家募集

今年も、京都府「ひきこもり状態にある者のための社会参加支援事業」の補助を得て、作家の募集をします。

ひきこもり状態にある人で、絵画制作などのアート創造活動に興味や関心がある方、ひきこもり中もアート制作を続けている方などに当機構のアトリエを提供して、自由に創作活動をしていただき作品を生み出すことで、社会との接点を持ちつつ得意なことに集中して達成感や自己肯定感を高めます。



アトリエで制作中の作家

ご希望の方は、詳細は当機構Webページよりお問い合わせ、またはお申し込みください。

【Eメール】 info@lensai-art.kyoto

作品アーカイブを ご活用ください！

当機構では、企業や団体さまに商品デザインへの活用や広報誌・PR誌などの印刷物に使用していただけるように、作品アーカイブデータを提供しています。

現在、登録作家39人の作品3700点のうち1750点をアーカイブ保存し、Webページにアップしています。作品は毎年500点程度ずつ増加していますが、そのうち300〜400点をアーカイブしていきますので、今後もボリュームアップしていきます。

天才アートKYOTOの個性豊かな作品群の中には、きつと皆さまのイメージに



「ふるしき」 写真提供：山田繊維株式会社 むす美

マッチする作品を見出すことができます。ぜひWeb上の「作品アーカイブ」をご覧ください。

●ご採用例

「ふるしき」：むす美◎山田繊維株式会社さま
「和ろうそく」 新デザイン柄：有会社社中村ローソクさま

市民啓発用「エコバッグ」他：京都市環境政策局◎み減量推進課さま

一般社団法人京都発明協会さま・農業分野における「デザイン経営」の仕組みづくり支援事業「パッケージ試作」

機関紙など表紙：公益財団法人世界人権問題研究センターさま／フィランソロピー協会さま／株式会社増田医科器械さま 他

【Web】 http://lensai-art.kyoto/activity/archive_of_works/



京都新聞社会福祉事業団主催 第39回京都新聞チャリティー 美術作品展「特別展示」に出展

毎年恒例の「京都新聞チャリティー美術作品展」が、本年は8月11日（水）より16日（月）まで、京都高島屋7階イベントホールで開催されます。



前回の特別展示は写真左側の入口付近で開催

同展会場内に障碍のある人の芸術活動やアート作品を紹介する特別展示が併設され、当機構も協力して天才アートKYOTOの作家・作品を出展いたしますので、会期中ぜひご来場ください。

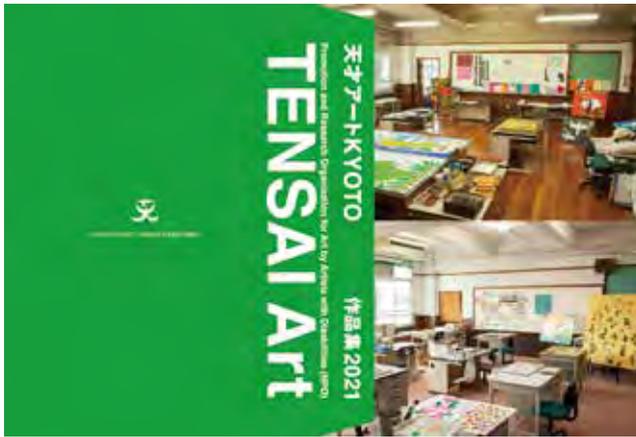
同展は、全国の著名な美術家（日本画・洋画・陶芸・工芸など）、宗教家、文化人ら約1400人から、福祉のために寄贈された作品を入札により買い求めるもので、毎回多くの入場者で賑わいます。

詳しい内容は、京都新聞ならびに京都新聞社会福祉事業団のWebサイトをご覧ください。

天才アートKYOTO作品集 待望の第1号刊行!

2011年に活動を開始し、12年には制作の場としての新道アトリエを開設し、作品の収蔵を進めるとともに、15年より作品アーカイブ事業を立ち上げました。

この間登録作家も15人から40人超に、収蔵作品も3700点を超えて、そのうち1750点をアーカイブ保存しています。



表紙



中面・作品掲載ページ

うら表紙

作品アーカイブ開始当初より、多くの方々から熱望されてきました「天才アートKYOTO作品集」を、このたびようやく刊行いたしました。

刊行にあたりまして、創作を続けてこられた登録作家の皆さまやご家族の方々、作品撮影に尽力いただいた写真家の森島善則氏、その他関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

体裁：B5判／オールカラー／110ページ／2000部／掲載作家39人

公益財団法人大阪コミュニケーション財団助成

会員寄付および ボランティアさんを募集しています

支援していただける会員や寄付、また活動をサポートしていただけるボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページに掲載していますので、ご覧ください。
<http://tensai-art.kyoto>

広告主さま募集中!

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。1枠(55×22mm)・1万円(4回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art.kyoto.jp

〈編集後記〉

本年5月にアトリエを移転しました。ちょうど法人設立10周年に新たな創作の場を得たことになりました。新アトリエはエレベータを備え、バリアフリーに配慮された環境で、壁面にはビックチャールールも設置して制作と展示の両面に活用できます。さらに陶芸釜も設置して焼物制作ができるようになりました。ますます充実した制作環境のもと、新たな作品が生み出されることに期待が膨らみます。

このような素晴らしい環境を得られたのも登録作家さんやご家族、京都市、京都市教育委員会、関係者の皆さま、ボランティアの方々、事務局スタッフなど、すべての皆さまのご支援、ご協力のおかげと感謝申し上げます。

【表紙の作品について】

富田はテレビCMなどの「映像」で見たことのある企業ロゴタイプを元に、資料などは切用いらずに記憶のみで、厚紙をハサミで切り、形を作り、台紙にセロハンテープで巻きつけて制作しています。作品は、セロハンテープの硬質な質感によって「ロゴ」を映し出す「ディスプレイ」を模したものと、並外れた映像記憶能力を有する彼の「外部記憶装置」へも変貌します。

そのため大量の彼の作品の前に立った観客は、作家個人の記憶を超え、「日本の30年のCMの歴史」を共有するのにもなります。また制作に使用する厚紙などの素材は、市販の画材ではなく家庭から出たあらゆる商品のパッケージ箱を分解して使用します。そのため、富田作品には「個人の消費の歴史」といった側面も有しています。つまり彼の作品は決して、ただ「ロゴ」を制作したものではないのです。そのため昨年からの作品タイトルを「LOGOART」から「COMMERCIAL」へ改題を行いました。



『COMMERCIAL』富田 晃生 Akio Tomita 1989年生 紙・セロハンテープ

写真提供：アーツ千代田 3331「ポカラー」全国公募展 vol.9 (2020) より

広告協賛企業 (順不同)

わたしたちは天才アート KYOTO の活動に賛同しています



夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院



京都上鳥羽の印刷会社

(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業(株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホーム
エンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

